

向陽中だより



第2号

令和4年5月18日

杉並区立向陽中学校

＜教育目標＞ ◎ よく考える人 ○ 思いやりのある人 ○ たくましい人
5月2日の創立記念日 校長 齋藤 耕一郎

先日の5月2日（月）、向陽中学校は、開校75周年を迎えました。

向陽中学校は、昭和22年（1947年）5月2日に「杉並区立下高中学校」として開校しました。そのころは、京王線の桜上水駅から向陽中学校がよく見えて、今よりももっと緑豊かで自然がいっぱいのところだったそうです。ところが、昭和31年（1956年）4月に「下高中学校」から「向陽中学校」に校名を変更しました。校名を変更した理由としては、「下高中学校」の「下が高い」と語呂がよくないということで検討されたそうです。校名の由来としては、永福地区が「向陽台」と呼ばれていたこと、太陽に向かって咲くひまわり（向陽花）から「向陽中学校」と名付けられました。そのときに、ひまわりを図案化した現在の校章も制定されています。

当時、高井戸三小、永福小から向陽中に入学してこない生徒が多く、生徒も集まらないこともあり廃校を検討されていたようです。廃校寸前だった当時の中学校を、地域の人々（卒業生）、保護者、生徒、先生、多くの人々の熱意と努力、強い信頼によって復活することができたという歴史があるそうです。

その例として、校庭の拡張工事で運動会の開催に間に合わないとなり、心配したその当時の先生と生徒が一緒になって校庭の整地作業をして、運動会を行うことができたそうです。また、PTAや地域の方の協力によって、テニスコートとなっている土地を学校の敷地として広げることができ、その土地を先生・生徒が一緒になって整備して今のテニスコートを作ったそうです。

私としては、君たちがこの向陽中のことを一生忘れないように、5月2日の開校記念日は「ひまわりの種を植える日」と覚えていてくれるといいなと思い、用務さんやボランティア部員の生徒が動いてくれました。自宅でひまわりを育ててくれる生徒には、用務さんやボランティア部員から4月27・28日にひまわりの種を差し上げました。そのときに、種を取りに来られなかった生徒、種が発芽しなかった生徒はボランティア部の生徒に言ってくれれば、今度はひまわりの苗を差し上げますので、自宅で大事に育ててください。夏休みにはひまわりの花が咲きます。ひまわりを育てた経験から、花が咲いた後の種を卒業してもまた植えることを続けてくれると創立記念日のこともずっと忘れないことでしょう。

先生だけでなく地域の人々は、生徒の皆さんのことを考え、君たちの将来を考え、活動を通していろいろなことを教えてくれています。先日の土曜日に行った地域の人々による授業では、私も1年生の授業に参加して杉並のことを知ることができ、新しい発見ができました。

地域の人々は、君たち自身が向陽中学校を愛し、地域の誇りとなる生徒となって成長してくれることを期待しています。君たちに向陽中のことをもっと愛してほしい、そして地域でもいろいろ活躍してくれることを地域や保護者の方々、先生方を含めて大人の人々は願っています。

向陽中学校を卒業した人々は、みんな君たちの先輩であると考えると、創立記念日の5月2日は向陽中出身の人々にとっては共通の日となります。ぜひ、向陽中の生徒として、君たちも地域の先輩たちと一緒に歴史と伝統を守っていってほしいと思います。

